

椿小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 児童の実態に応じた複式授業の実践
- 自主的に、安心して取り組むことのできる家庭学習の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
永井 ももこ	校長: 清水 浩三, 教頭(3・4年担任): 立田 香江子, 5・6年担任: 平岡 伸章, 1・2年担任: 瀧本 香織, 椿学級担任: 永井 ももこ, 市学校教育支援員: 林正雄

校長

清水 浩三

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員間での研修、OJT等を行うことで、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ドリル学習や家庭学習等に真面目に取り組むことができ、該当学年の漢字の読み・書き・計算等において約8割程度の定着が見られる。 ○昨年度末の児童のアンケートから、授業で学んだことを生活の中で活用しようとしているという内容に9割以上の児童が肯定的な回答をしている。 ●漢字の読み・書き・計算等において、個人差が大きい学年があり、長期にわたっての定着度が不足している児童もいる。 ●長文の読み取りや工夫して計算する問題に対する理解に時間がかかる。	・漢字の読み書きや四則計算などの、基礎的・基本的な知識・技能を習得している。 ・習得した知識や技能を、他の学習や生活の場面でも応用して活用することができる。	・朝のスキルアップタイムや授業の始めの10分間を使って、漢字・計算等のドリル学習や、タブレット教材を活用した基礎的・基本的な反復学習を継続的に行う。 ・個人の課題に応じた授業展開を心がける。 ・漢字検定や数学検定に取り組むことで、児童に目標をもって学習に臨む態度を身につけさせるとともに、基礎学力の向上を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○方法や手順が分かる学習には真面目に取り組むことができる。 ●読解力、表現力が乏しく、考えたことを自分の言葉で話したり、書いたりすることに課題があり、自ら進んで表現することに苦手意識がある児童が多い。	・みんなの意見を聞き、授業や行事等で積極的に自分の考えを話したり書いたりし、他者に伝えることができる。	・ペアやグループで取り組む学習を効果的に取り入れ、児童相互の学び合いの機会を持てるような授業展開に努める。 ・児童の発言や発表の内容に応じて「なぜ」「どうして」などのさらなる発問を行い、考えを深めさせる。 ・児童のま考えを認め、まちがいを生かしてまちがっても良いと思える雰囲気づくりに努めることで、安心して学習することができる場をつくる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いて学習に取り組むことができ、出された課題や家庭学習などには、真面目にきちんと取り組むことができている。 ●主体的な取り組みに対して個人差があり、自分で考えて自主的、計画的に学習を進められる児童は少ない。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の苦手なことや興味に応じて、自ら課題を設定し、各教科の学習や自主学習等で、学習の仕方を考えながら積極的に取り組むことができる。	・家庭学習の手引きを作成し、児童・保護者がどのように家庭学習に取り組めばよいのか具体的に分かるようにする。 ・「家庭学習チェックカード」を活用することで、保護者に家庭学習の様子を見てもらうことができるようにする。 ・毎月最終金曜を「家庭読書の日」とし、学校図書を持ち帰らせて、家庭での読書に励むことができるようにする。 ・毎月「家庭読書の日」以外の金曜を「自主学習の日」とし、自分に合った量や内容の学習に取り組むことができるようにする。 ・毎時間のめあてを明確にし、授業の中に児童の主体的な体験や活動を積極的に取り入れる。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

